



気候変動阻止！ 新たな闘いへの挑戦を開始 市東さんの農地死守！ 機能強化白紙撤回！



新年デモ & 団結旗開き

1月9日、好天の下、全国から集まった130人の仲間と共に成田市天神峰の市東孝雄さん宅中庭で団結旗開きを行いました。

私たちは22年、「気候変動阻止」を掲げ、新たな闘いへの挑戦を開始します。

東峰の萩原富夫さんが「闘争宣言2022」(2面)を読み上げ、全世界で立ち上がる若者と共に、市東さんの農地死守・空港機能強化の白紙撤回を成し遂げ、気候危機の元凶である「巨大空港建設の時代」を終わらせようとアピールしました。

市東さんは、福島・沖縄・三里塚を一つの闘いとして、自らの命にも等しい農地を全力で守り抜く決意を明らかにしました。

強制執行・機能強化との闘いは、今年が正念場です。3月27日には芝山町の集会妨害を打ち破って、芝山現地で集会を開催します。

反対同盟は空港周辺住民のみなさんと共に、国・NAAの横暴を許さず闘います。本年もよろしくお願いいたします。



市東さんが精魂込めて耕す南台農地から新年デモ(9日)

1・28第3誘導路裁判

1月28日(金)午前10時30分開廷 千葉地裁

3・8団結街道裁判

3月8日(火)午前10時30分開廷 千葉地裁

※新型コロナ感染の急拡大で期日延期の可能性があります。反対同盟のツイッター・ブログなどでご確認下さい。

闘争宣言2022

2022年、反対同盟は新たな闘いを開始する。2020年以来2年間のコロナ禍をきっかけに航空需要は激減し、成田空港は廃港の危機にある。しかし、これを単なる経営危機として歓迎するのではない。未来のために「巨大空港建設の時代」を終わらせなければならないのだ。

われわれは気候変動阻止を三里塚闘争の正面課題に据えて闘うことを決意する。地球温暖化による気候変動の危機は、一刻の猶予もないほど深刻である。大量にCO2を排出する航空機の運航は、気候危機を促進するものであり、政府の観光立国政策と「成田空港の更なる機能強化」は時代に逆行する最悪の政策である。

成田空港会社(NAA)は昨年3月、中長期の環境目標「サステナブルNRT2050」を策定し、50年度までに航空機や空港施設など成田空港全体から排出されるCO2を半減するというのが、現在の2倍の50万回発着したら排出量は今と同じではないか。まったくふざけている！

SDGsと称して、持続可能な航空業界を目指すというのは資本のまやかしの言葉に過ぎない。企業の利益が優先する資本主義には、気候危機を解決できない。

われわれは、55年の永きにわたって農地と農業を守り環境破壊と闘ってきた。カネにも国家暴力にも負けず信念を貫いてきた三里塚闘争を闘うわれわれこそ、今、地球と生命の未来のために世界で立ち上がる若者たちと連帯して闘おうではないか。市東さんの農地を守りぬぎ、機能強化を粉砕し、空港廃港という究極の勝利への道のりは、地球と命を守る世界の人々との団結と勝利の中にある。

また同時に世界は米中戦争の危機の中にある。米英仏中口の「核戦争回避」声明が示すように一触即発の危機にあることは明らかだ。

岸田政権は沖縄辺野古新基地建設・南西諸島へのミサイル配備を進めながら「台湾有事」を想定した自衛隊の大規模軍事演習を繰り返している。沖縄をはじめとする反戦・反基地闘争と連帯し、改憲・大軍拡に突き進む岸田政権打倒へ全力で立ち上がろう！

反対同盟は本年も、市東さんの農地取り上げ強制執行を阻止する団結を闘う労働者・農民・学生・市民とますます強固にし、「成田軍事空港絶対反対！ 農地死守・実力闘争」を貫く決意だ。周辺住民と共に機能強化白紙撤回へ！ 3・27芝山現地闘争に立ち上がろう。

2022年1月9日

“N A Aの農地取得は違法・無効！ ヤグラ・看板の撤去は許されない”

新やぐら控訴審で4人が証言

1月19日、新やぐら裁判控訴審第2回が東京高裁102号法廷で行われました。反対同盟の市東孝雄さんと専門家3人が証言に立ちN A Aを圧倒しました。

午前中は市東さんと憲法学の内藤光博さんが証言。

市東さんは、やぐら・看板設置の経緯を説明した上で、「私の有機完全無農薬農業とやぐら・看板は一体のもの。これらの撤去は農地を取られることと同じ」と述べ、裁判長に「審理を尽くして不当判決を出さないように」と迫りました。

内藤さんは、「生存権的財産権」「営農権」といった権利が市東さんにはあると解き明かし、さらに抵抗権の行使として「農地を守ることとやぐら・看板による意思表示は一体だ」と論じました。

午後からは民法学の吉田邦彦さんと経済学の鎌倉孝夫さんが証言に立ちました。

吉田さんは、「居住福祉法学」という考えを示し、「住まいは単なる商品ではない」「金銭や金目だけで解決をはかる日本のあり方は諸外国からも立ち後れている」「強



天神峰農地に建つ大看板

制立ち退きは深刻なテーマだ」と述べました。そして、「(N A Aは)市東さんの身体の一部をもぎとるようなことでしか本当に将来を語れないのか。真剣に考えるべきだ」と迫りました。

鎌倉さんは、コロナ禍によって航空需要が激減し、破たんが明白となっている成田空港の経営実態や将来について経済学的に分析・論述しました。そして、「いまや成長よりも生存・生活基盤の充実が重要だ」と述べ、「農業は絶対必要不可欠」と強調しました。

4人の証言によって、市東さんにはこの地で耕し続ける確固たる権利があること、N A Aによる農地取り上げややぐら・看板の撤去には一片の道理もないことが重層的に明らかにされました。

次回期日は3月14日(月)午後2時開廷です。ぜひ傍聴にお集まりください。

今秋準備工事開始宣言を許すな！ N A A 滑走路整備計画の概要パンフ作成

昨年12月23日、N A Aの田村明比古社長はB滑走路の1千北延伸準備工事を今年秋に、C滑走路は23年度に着工すると発表しました。絶対に許すことはできません。住民説得のためにN A Aが作成した「滑走路整備計画の概要について」なるパンフレット(右)では、大量の土・碎石で北総台地を埋め立てて舗装し、河川・水系をずたずたに破壊、貴重な動植物の住処を奪う工事を行うことを認めながら「自然環境に配慮」などと恥知らずに書いています。住民をなめるな！ 住民の命と暮らしを破壊する機能強化は白紙撤回以外ありません！ 今こそ声と行動を！



地域住民の声

成田市の住民から。入眠最初の90分間の睡眠妨害は後からでは取り戻せないという専門家のお話を踏まえ、今こそ反対の声を上げようとの呼びかけです。

◆騒音による睡眠妨害は心疾患のリスク高める。声を上げるのは今。

成田市 農業

人が健康な生活をするのに必要な睡眠は8時間と一般的に言われ、睡眠のサイクルは90分間隔で繰り返されています。

騒音に関する研究者から聞いたお話をなのですが、この睡眠サイクルの中で最初の90分が一番重要で、これが航空機騒音などの妨害で確保されないと後のサイクルでは取り戻すことができず、日中の眠気や集中力の低下が起こることになります。

さらに睡眠妨害は内分泌腺に影響し、自律神経障害や心疾患などが重症化するリスクが高まるそうです。

また、航空機騒音対策のベースとなるLdenは、音のエネルギー平均値に基づいた騒音指標であり、人間の耳は音のエネルギーを平均できません。現在はLden62を基準に騒音対策をしていますが、62未満でも影響がないわけではありません。夜間騒音は環境性睡眠障害という疾患(公害病)を引き起こします。

私たちが40数年被害を受けている航空機騒音公害は「自分が気づいていない」だけで、不快感やストレスがたまっており、これが進めば睡眠障害や心疾患に結びつくとのことなのです。

今、何も言わないとこのまま進んでまいりますよ！ 声を上げるのは今しかありません。

今年度から機能強化の工事を始めるとの新聞報道も昨年末にありました。

昨年の「健康意識調査」を行った方は、回答文書(症状の程度が記載されている)を大切に保管しておいて下さい。

1・30天神峰カフェにご参加を

1月30日(日)正午、成田市天神峰の市東さん宅離れで天神峰カフェをオープンします。ぜひご参加を。年末のカフェでは庭や作業場の大掃除を行いリフレッシュ。その後、つきたてのお餅の入ったお汁粉(写真右)を頂きながら交流を深めました。ご連絡は太郎良(たろうら)陽— 090(1855)8189まで。



温かいお汁粉 (12月26日)